

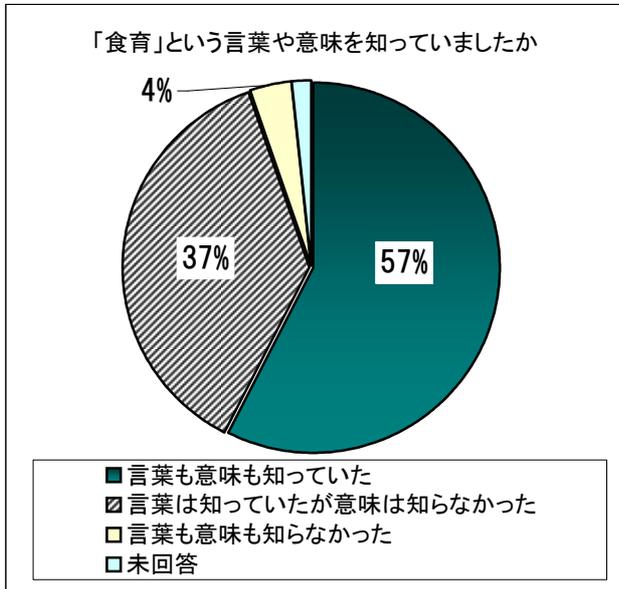
留萌市「食育」に関する市民アンケート調査結果（H24年度）

（対象：3歳～15歳までの子育て世帯 回答件数 1,151件（回答率63.2%）

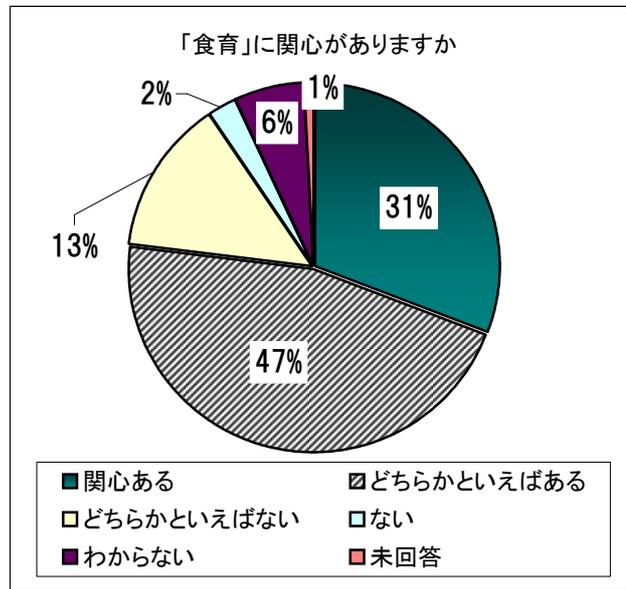
調査方法 市内2幼稚園、3保育園、10小中学校の保護者へのアンケート

調査期間：H24.12.12～12.21

1. 食育に関する意識（①関心度）

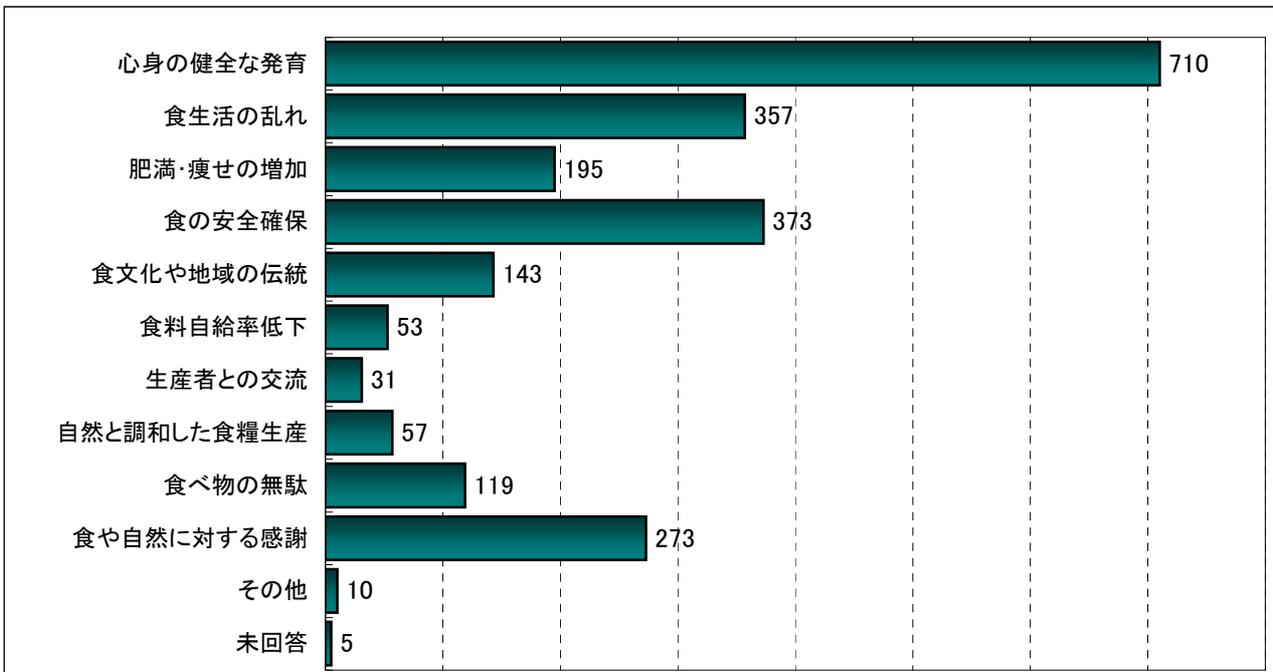


「食育」という言葉については、「言葉も意味も知っていた」「言葉だけ知っていた」を合わせて、94%の家庭で知っていると回答しています。



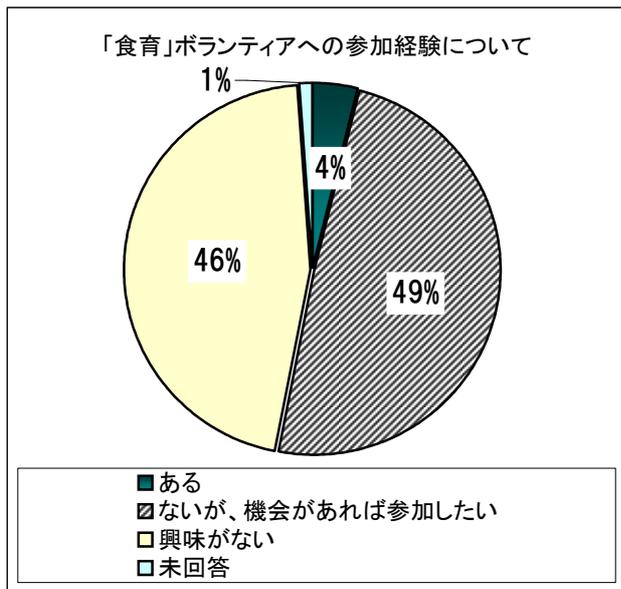
「食育」への関心度については、「関心ある」「どちらかといえばある」合わせて78%の人が関心があると回答しています。

食育に関心のある理由（3つまでの複数回答）



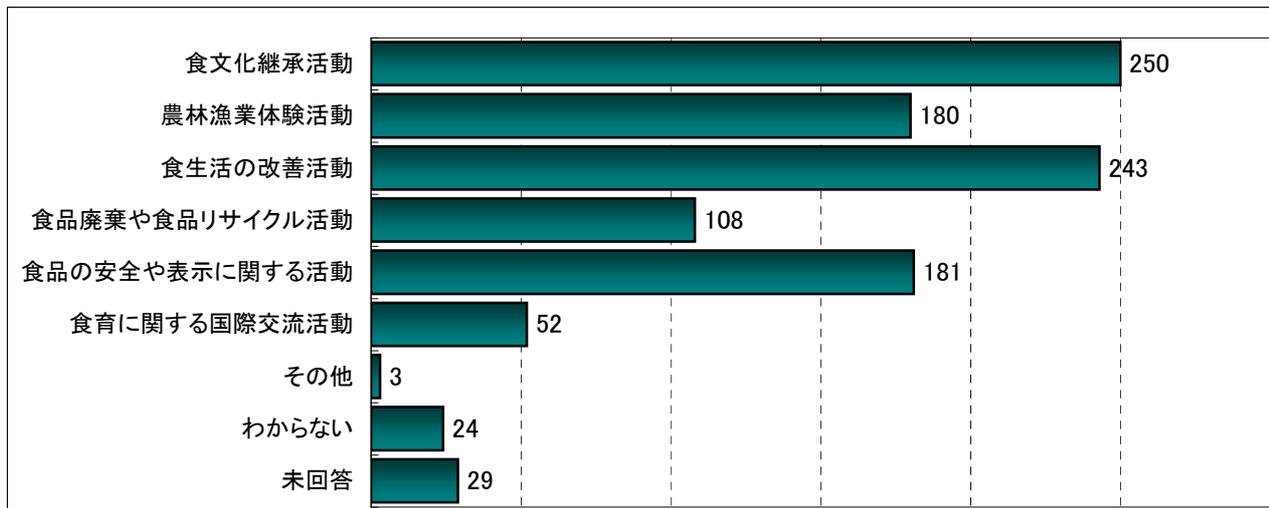
「食育」に関心のある理由としては、「心身の健全な発育」、「食の安全確保」、「食生活の乱れ」と続いています。子どもの健康面から食育を考える傾向にあるものと思われます。

1. 食育に関する意識（②ボランティア活動）



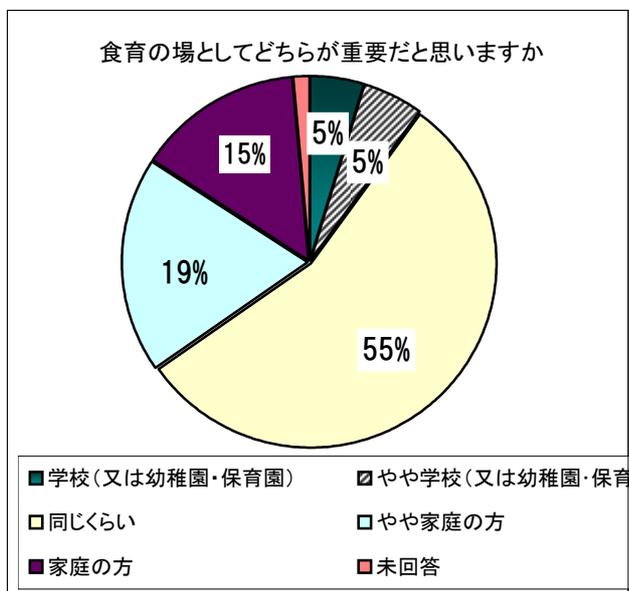
ボランティアへの参加経験は4%と少ないですが、約半数(49%)の人が「機会があれば参加したい」と回答しており、食育活動に対する参加意欲の高まりが見受けられます。

参加してみたいボランティア活動(3つまでの複数回答)



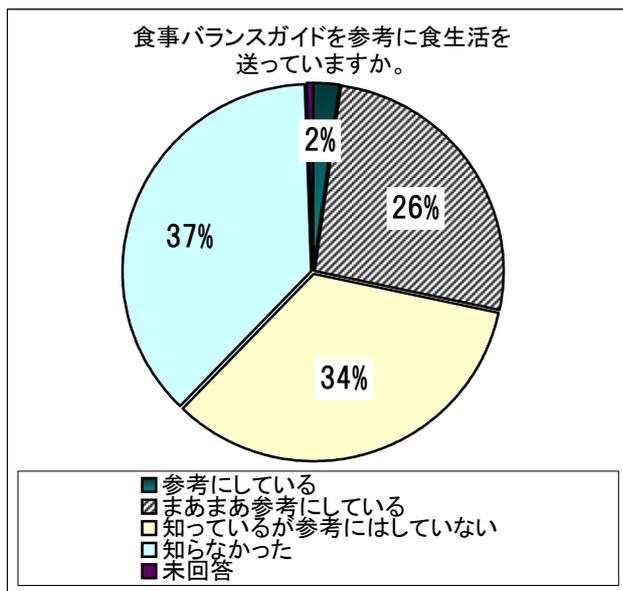
「ボランティア」の活動内容については、「郷土料理、伝統料理等の食文化継承の活動」、「食生活の改善に関する活動」、「食の安全、表示に関する活動」と続いています。

1. 食育に関する意識（③役割）



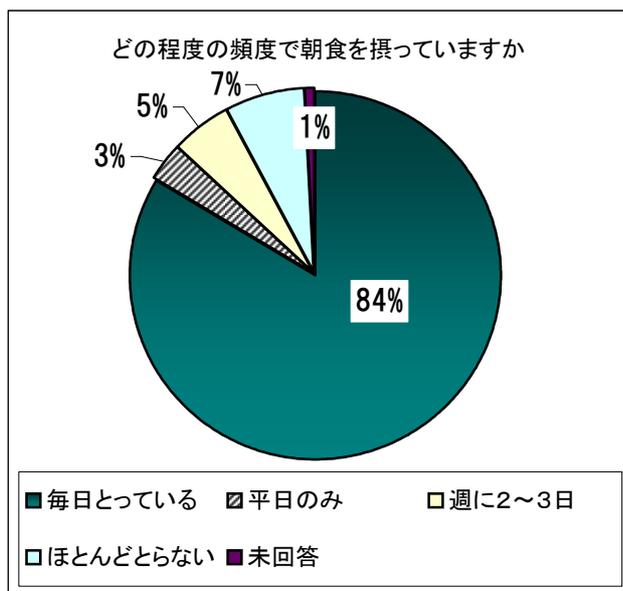
「食育の場」については、55%と約半数の方が「同じくらい重要」と答えており、学校(幼稚園、保育園含む)、家庭の連携方策が不可欠と考えられます。また、「家庭」、「やや家庭」を重要と考える家庭は合わせて34%となっており、家庭における食育の役割について、意識の高さがうかがえます。

1. 食育に関する意識（④バランスの取れた食事）



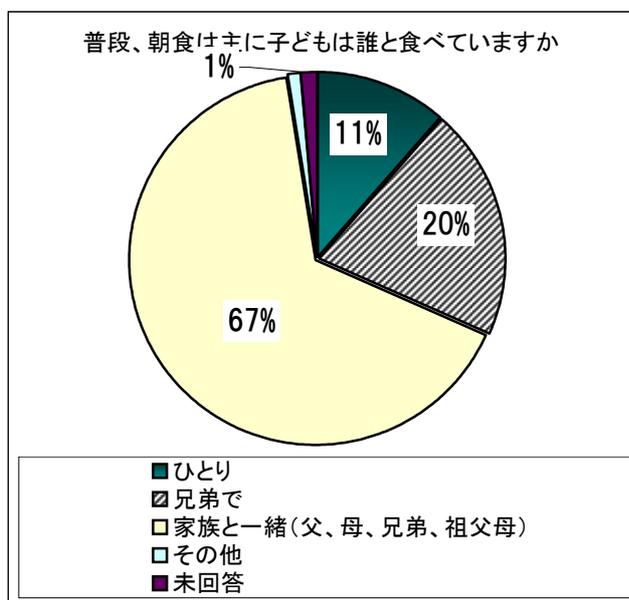
「参考にしている」「まあまあ参考にしている」は合わせて28%となっており、食育推進計画での目標値(H24: 60%以上)を下回る結果となっています。しかしながら、「知っているが参考にはしていない」と回答した家庭が34%となっており、これらを含めると約6割の方はバランスガイドを知っているものの、何らかの理由で参考するまでには至っていないと考えられます。

2. 家庭での食生活（親の朝食）



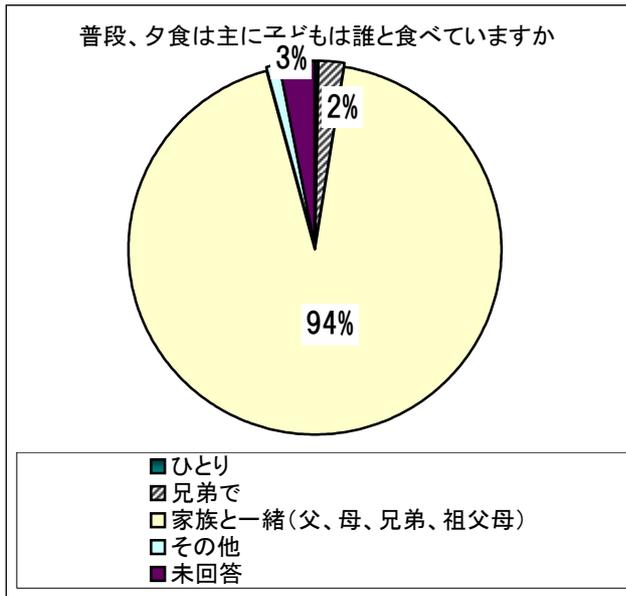
子どもの生活習慣を考える上で、朝食はとても重要であり、親の朝食摂取頻度が子どもの欠食度合いを考える一つの参考となります。本調査の結果、約8割(84%)の方が朝食を毎日食べていると回答していますが、約1割弱(7%)の人がほとんど摂らない状況となっています。

2. 家庭での食生活（家族での食事）



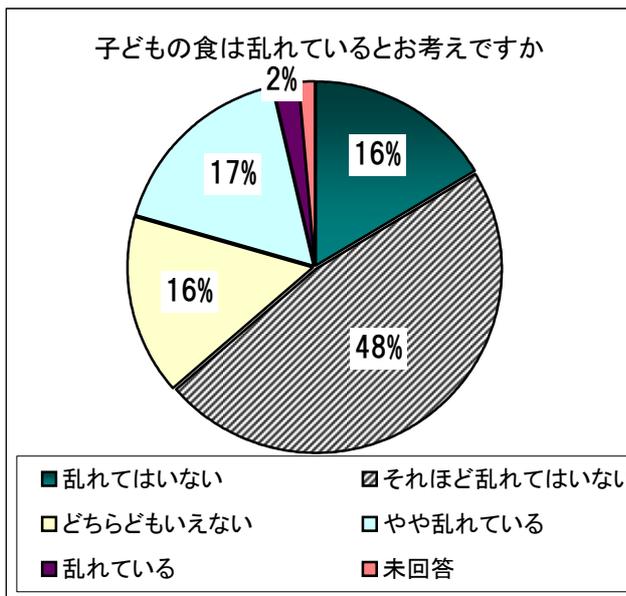
家庭における朝食については、約1割(11%)が「ひとり」で食べており、2割(20%)が「兄弟だけ」で食べているという結果となっています。全体の3割が子どもだけで食べている状況となっており、朝食を摂らない親が増えているというのも影響しているものと考えられます。

2. 家庭での食生活（家族での食事）



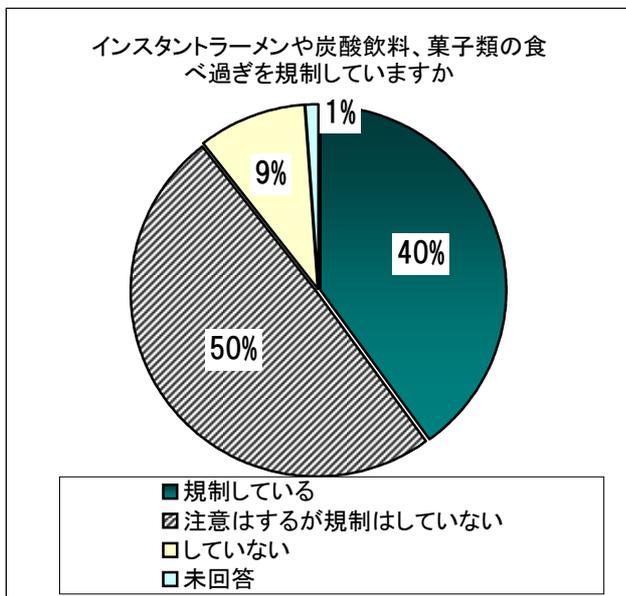
家庭における夕食については、94%が家族と一緒に食べており、ひとりで食べている家庭は0%となっています。

2. 家庭での食生活（家族での食事）



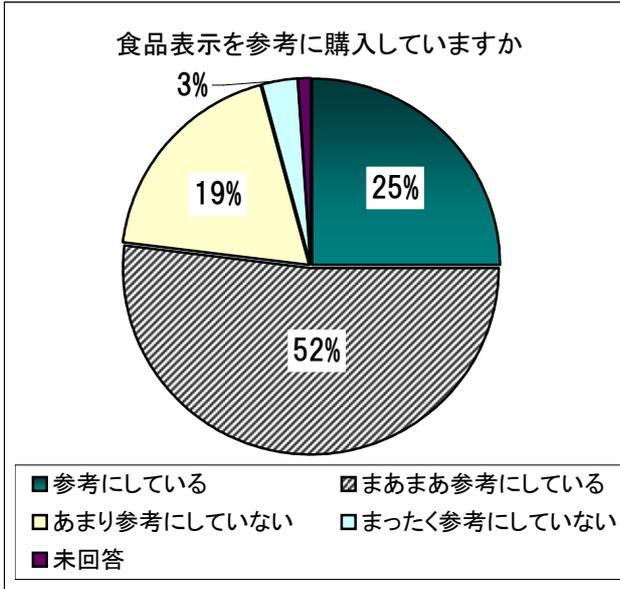
約6割(64%)の家庭が「乱れてはいない」と回答していますが、約2割(19%)の家庭で食生活の乱れを感じている結果となっています。なお、乱れの原因の約6割(57.7%)が「好き嫌いが激しい」、約2割(19.7%)が「間食が多い」と続き、「食が細い」が15.4%となっています。

2. 家庭での食生活（家族での食事）



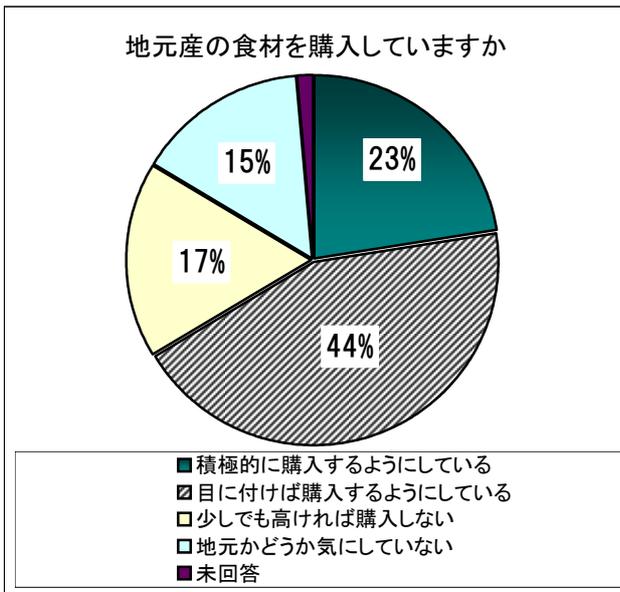
4割(40%)の家庭で「規制している」と回答しており、約6割(59%)では、「注意のみ」又は「規制していない」と答えています。

3. 食品の安全性への意識



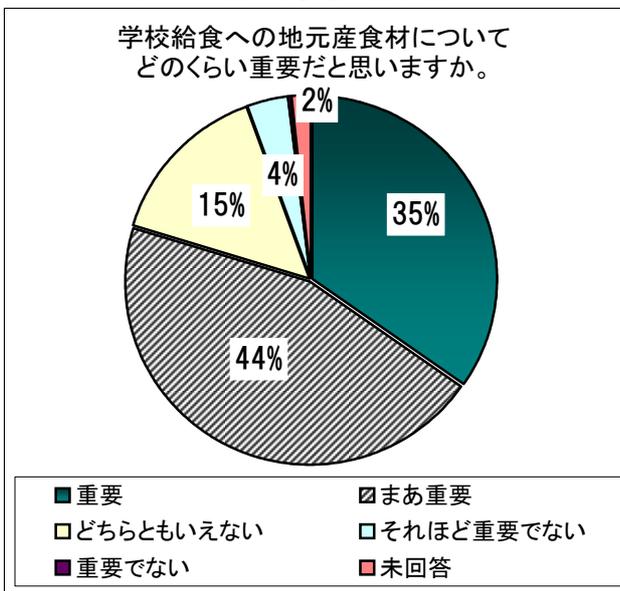
「参考になっている」「まあまあ参考になっている」合わせて77%となっており、目標値(60%以上)を上回っています。子どもの健康や食品の安全性が損なわれる事件、問題等を契機に意識が高まっているものと思われます。

3. 地産地消（家庭における地元消費）



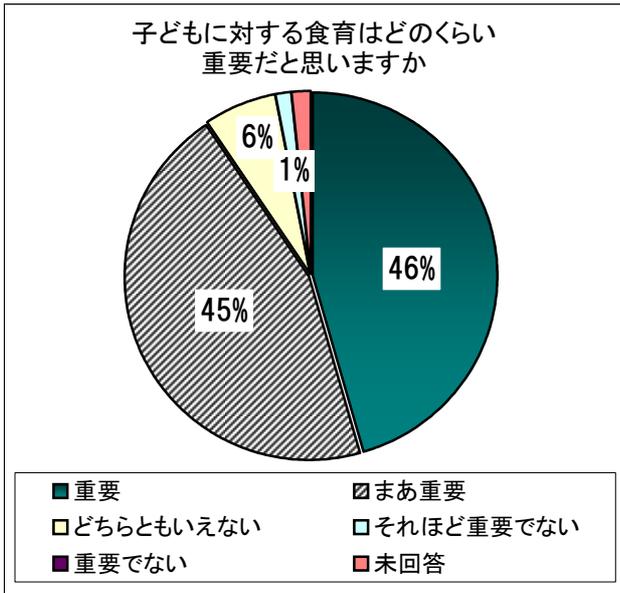
「積極的に購入する」、「目に付けば購入する」と回答している家庭が67%となっており、食育推進計画の目標値(H24:60%)を上回っています。できるだけ地元産の食材購入を意識している家庭が多く存在しているものと考えられます。

3. 地産地消（学校給食）



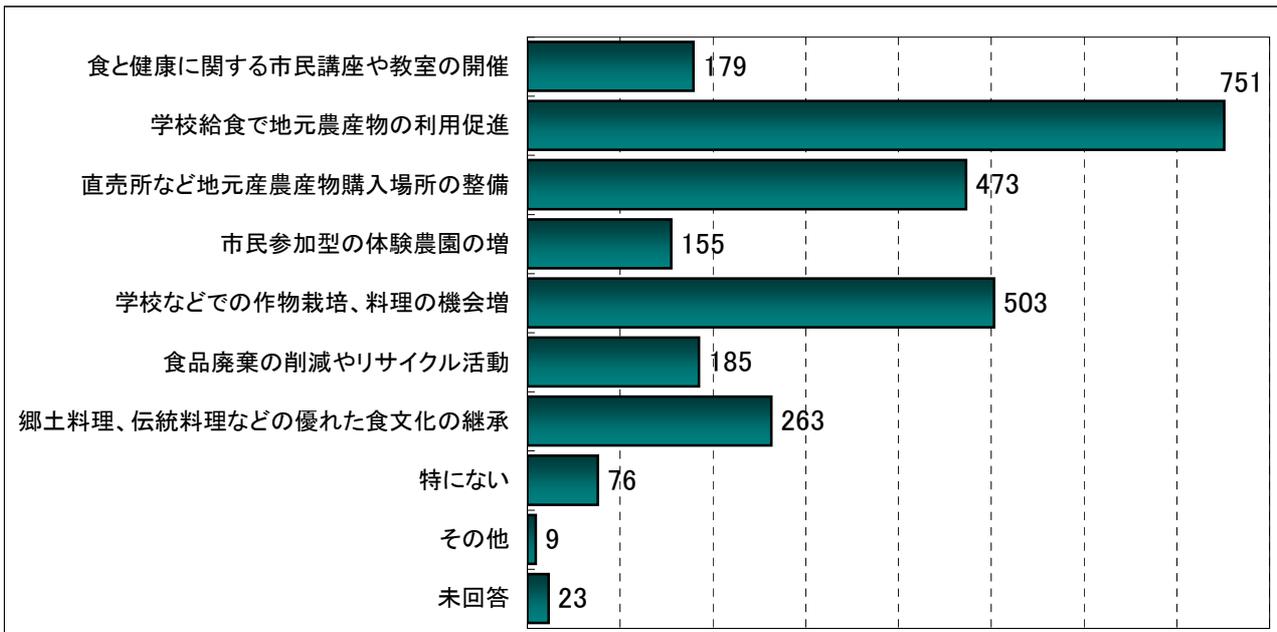
約8割(79%)の家庭で「重要」、「まあ重要」と回答しており、学校給食への地元産食材活用の期待が非常に高い結果となっています。

4. 食育についての展望



約9割(91%)の家庭で「重要」、「まあ重要」と回答しており、多くの家庭で子どもたちへの食育の重要性を示唆している結果となっています。今後においても食育活動の充実が求められています。

食育に関して市に期待する施策(3つまでの複数回答)



食育に関して市に期待する施策としては「学校給食での地元農産物の利用促進」、「学校などでの作物栽培、料理の機会を増やす」といった、学校現場における食育活動の充実を期待する回答数が多く寄せられています。また「直売所など、地元農産物購入場所を整備」といった地産地消の推進や、地域の食文化等に触れる機会づくりについても期待が寄せられています。

